

## 平成 25 年度第 2 回理事会

日時：平成 25 年 9 月 28 日(土) 18:30-21:00

場所：リステル猪苗代 葦雀（よしきり）の間

出席者：宇都浩三（会長）、井口正人（副会長）、中田節也、高田亮、金子隆之、寅丸敦志、中村洋一、藤田英輔、星住英夫、森俊哉 萬年一剛、山里平、大湊隆雄（以上 理事）、

欠席：下司信夫理事

### 議題

#### 【報告事項】

##### 事業委員会（星住）

IAVCEI2013にて、Tシャツ 500 枚完売。缶バッジ 1200 個作製し、682 個売れた。残りは無料配布予定。

学会ロゴTシャツを秋季大会で販売。

第 14 回地震火山子どもサマースクール 2013 年 8 月 3-4 日（伊豆半島） 33 名参加。

2014 島原、2015 南アルプスが内定。

##### 庶務委員会（大湊）

- ・ 会員数 春季学会以降の会員数について報告。入会 18 名、逝去 1 名、退会 5 名、継続申請書提出による退会取り消し 11 名、除名 8 名。総会終了後の会員数は、維持 271 名、学術 706 名、一般 39 名、団体 15、名誉 7 の計 1038 名であり、かろうじて 1000 人台を維持。
- ・ 新入会員の会員カード回覧（会長承認事項であり既に承認済み。確認のための回覧）。

##### 予算委員会（森）

- ・ 100 万円以下の未納金あり
- ・ 予算項目が必要以上に細分化されており、項目間の流用が難しかった。予算書の項目を整理し、実態に合ったものにするとともに、括りを大きくして使いやすくする。

##### 編集委員会（寅丸）

- ・ 火山発行状況 58-3 号(2013 9/30 発行)
- ・ 58-4 号（2013 年 12 月 27 日 発行予定）通常論文 3 件
- ・ 59-1 号（2014 年 3 月 31 日 発行予定）通常論文 3 件

- ・査読状況 5編査読中（論説4編、寄書1編）
- ・名誉会員 森本良平氏の追悼文が出ていない。→ 学会中に藤井さんに依頼したが、乗り気ではなかった（大湊）

#### 学校教育委員会（萬年）

- ・公開講座の実施（9/28 まなびいな、講師：林・久利・佐藤、12/14 島原予定）
- ・科研費 研究成果公開発表B 120万円 取得（代表 中村）
- ・火山教育の効果 地震火山サマースクール（伊豆半島）、学会中の公開講座（猪苗代）

について、教育効果を評価中

- ・JpGU教育問題検討委員会の動向

7/20、9/24の会合出席

高校地学は「地学基礎」と「地学」の2本立てになり、基礎は3教科選択になった。

これにより、地学履修者が7%から18%に増加し、危機感が薄れた。履修者増により、「防災」「環境」を大幅に取り入れて生き残りを図るという機運は消滅。今後は、「基礎」が残るように働きかけるとともに、「理科総合」復活に備えて内容を検討する。

ここで、科研費について、LOC、学校教育委員会、事業委員会のどれが主体なのか、整理する必要ありとの議論が出た。学会中の公開講座に充てていた頃はLOC・学校教育が主体となっていた。しかし、昨年学会と公開講座が必ずしもリンクする必要が無いことが分かった。

#### 他学会連絡担当（金子）

- ・EPS誌関係

- ・科研費（国際情報発信強化（A））に採択。

H25/25,200千円、H26/22,210千円、H27/22,010千円、H28/22,090千円、H29/22,170千円

- ・EPSはオープンアクセス誌として、来年度よりSpringerから出版。

9/17からSpringerOpenで投稿受付

掲載料 共同5学会会員 200ユーロ、非会員 600ユーロ（レターはいずれも100ユーロ）。カバーレターに会員情報の入力必須。

メーリングリストにより、周知済み。EPSのEditorialManagerでの投稿は10/31受付分まで、テラ学術出版扱い。11/1以降はSpringer扱い。

バックナンバーもテラパブからSpringerに移行。

Frontier Letterの推薦依頼。火山学会からは、巽、小屋口、石塚、下司、市原の5氏を推薦。

大会委員会（下司 中村理事 代読）

- ・ 2014 年 福岡大学（11 月 1 日－11 月 3 日）  
巡検 雲仙、九重別府

IAVCEI 実行委員会（宇都）

・ 7/20-24 に成功裏に完了。11/13 の組織委員会で報告承認後、報告書を「火山」に掲載予定。組織委は年度末で解散。

・ 参加登録 1069 名、これまでの I A V C E I で最大規模。東アジアからの参加者が多い。火山学会員は登録上は 275 名しかいなかった。残りの日本人参加者 124 名にも会員が含まれている見込み。

・ 学術講演数 総数 1209（口頭 651、ポスター 556）。口頭会場 7、ポスター会場 2。  
投稿数 1291 件 82 件キャンセル。キャンセルの穴埋めを工夫した。

・ 各種イベント ICE ブレーカー、開会式、授賞式、巡検、GALA パーティー、夕食会等。  
伊藤鹿児島県知事、森鹿児島市長も出席。

・ トラベルグラント 250 件の応募に対し、119 名 1300 万の補助。途上国や若手研究者の参加促進。

・ 会計 収入 1 億 800 万円、支出 9300 万円、1500 万円残。参加者数が見込みを大幅に上回ったことが主因。剰余金の使途は別途議論。

LOC 報告（中村）

A 会場は余裕あり。B 会場は定員超過。

ジオパーク支援委員会（中田）

ジオパークシンポジウムの実施

第 1 回ジオパーク支援委員会

#### 【審議事項】

○こどもサマースクール担当の変更（星住委員提案）

こどもサマースクール担当を事業担当から学校教育委員会担当に変更。

→ 理事会了承

○日本火山学会原子力委員会（仮称）の設置（藤田委員提案）

議論

- ・ 倫理要綱の具体的なイメージはどうか？

- ・学会としての立場と個人の立場を区別することが重要。
- ・原子力問題に関し、会員に対して、各方面から個別に働きかけがある。情報交換の場として、委員会が必要。
- ・廃棄物問題や原発立地に関し、学会の声をまとめるのは不可能。
- ・個別の接触は既に始まっている。
- ・10年前にカルデラ噴火を予測せよとの、モニタリングの要望があった。
- ・桜島大正噴火級なら警戒できるかも。
- ・気象庁は様子見の段階。
- ・電力会社は予知連の意向に従うのではないか。予知連を通じて、関与すればいいのでは？
- ・委員会の位置づけは、学会としての意見を求められた時の対応を議論することか？
- ・学会の one voice はあり得ない。対応の仕方に関する方針まで決めれば、委員会の役割は終わるのではないか？ 臨時委員会で良いのでは？
- ・そもそも、委員会、臨時委員会、WGの区別がそれほどはっきりしていない。

名称を「原子力問題対応委員会（臨時）」とすることに決定  
 （原子力問題設置準備委員会、WGなどの案も出た。）

○火山学会賞など、各賞の在り方について（高田理事）

高田委員より、各賞委員会での議論を紹介

- ・細則を変えない。運用も従来通り
- ・細則を変える
- ・募集文に学会賞に期待される内容を明示的に書く、

の3案が出た。

「細則の変更」はボツ。募集文を工夫する。

学会賞 1名以内、奨励賞 2名以内の制限を撤廃する。それぞれ「若干名」とする。

○ 学生発表賞に関する議論（提案者不明）

学生論文賞に関してかなり活発に議論をしたはずですが、大湊のメモでは、

「論文賞等は火山学会名義」

としか書いてありませんでした。申し訳ありません。論文賞・学会賞・奨励賞は既に火山学会名義（会長名）で出しているのです、このメモに書いてある「論文賞等」は学生発表賞を指しているのかもしれませんが、はっきりしません。

学生発表賞を誰の名義で出すか、という10/9のMLでの議論を末尾の「別添資料」に抜粋してあります。多くの理事（寅丸、萬年、金子理事）の記憶が一致する点は、「学生発表賞を大会委員長名で出すことになった」です。一方で、この結論は「現在の学生論文賞は大会委員長名で出している」という事実と異なる情報に基づいているようです。

議事録の不備と、理事会があやふやな情報に基づいた結論を出し得る、という2つの問題点が

#### ○防災委員会の常設委員会化（中村理事提案）

- ・春の理事会での議論に従い、提案書が提出された。
- ・目的・任務のうち、人材を派遣・推薦することに言及した部分は、個人を学会がオーソライズすることになる点や、実現性の観点から問題があるので、除いてはどうか、という意見が出た。
- ・常設化そのものは承認された。
- ・目的・任務等の文言は適宜修正することになった。

#### ○IAVCEI2013 剰余金の扱いに関する議論（宇都会長提案）

・火山学会会計に戻すと収益とみなされる可能性があり、場合によっては学会が課税団体になる。

- ・用途を「世界の火山学発展のための交流」に限定し、学会名義で基金化しては？
- ・2016年の地学オリンピックなどに充ててはどうか？
- ・基金化しても、財布の名義が「火山学会」である以上、課税回避のための基金化とみなされる可能性があるのでは？税理士と相談する必要あり。
- ・本理事会では結論が出ず。税理士と相談しつつ、実行委員会で更に検討することとなった。

以上